

2. 実証及び調査研究の体制・スケジュール

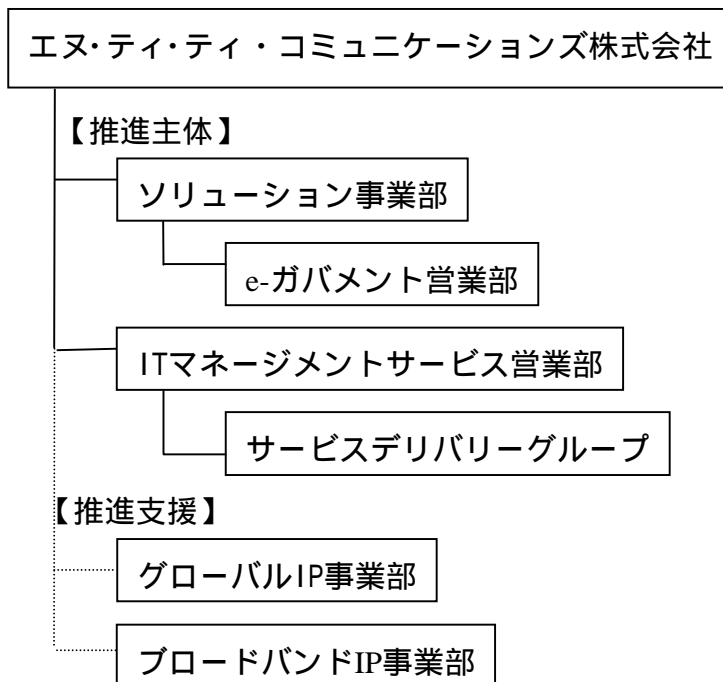
2.1. 実証及び調査研究の実施体制

実証及び調査研究に取り組む基本的方針

IPv6のネットワークに様々な種類の端末が無数に接続される環境下で、IPv6マルチキャストによる大容量高画質の動画配信技術及びIpsecによる認証技術、End-to-Endでセキュアな環境下での広域VoIPネットワーク技術、超高速無線LAN等のワイヤレス技術を適用して、教育分野の将来におけるITの在り方、またIPv6関連技術の有用性について、弊社の有する先進的なIPv6通信技術及びネットワーク・システム運用ノウハウを基盤とした検証及び調査研究を実施した。

なお、本検証及び調査研究推進にあたっては、IPv6技術の実証フィールド展開に向けたより有用な成果展開に資するため、平成13年度より通信・放送機構様が実施する委託研究「情報家電インターネットに関する研究開発」にて、IPv6の特徴をより高度に生かしたネットワーク基盤の研究に携わる弊社研究メンバ、及び弊社IPv6ISPサービス主管等関連部門との連携を有機的に行った。

実証及び調査研究推進体制



2.2. 実証及び調査研究のスケジュール

本実証及び調査研究においては、その実工程を大きく 検証環境の構築及びシステム試験、 技術検証の二段階に分けることができる。

具体的な実施スケジュールは以下の通り。

検証設備名	2002/10	11	12	2003/1	2	3
IPV6 マルチキャストによる大容量、高画質の動画像配信技術検証と Ipsec による認証技術検証	構築及びシステム試験			検証		
超高速無線 LAN 及び高速無線 LAN 環境下における将来を見据えた適用分野の検証	構築及びシステム試験			検証		
IPv6 を用いた広域 F.F.-VoIP システムモデルの実現と検証	構築及びシステム試験			検証		

本件実施にあたっては、超高速無線 LAN 設備において想定されていた規格 (IEEE802.11g) の国際的な標準規格の統一の遅れにより、検証設備の構築スケジュールに著しい影響があったため、当初計画の検証期間を確保することが困難な状況となったが、IEEE802.11g 相当の機器による世界に先んじた超高速無線 LAN 環境の構築及び検証を実施し一定の成果を得ることができた。